

きつつきのくちばし

2年 せつめい文 15ばん

なまえ

森の中から、コンコンコンと音が聞こえてきます。きつつきが、くちばしで木をつついている音です。

きつつきのくちばしは、まっすぐでかたくできています。このくちばしで、木に小さなあなをあけます。

あなのおくには、木を食べる虫がかくれています。きつつきは、長いしたをあなのおくまで入れて、虫をつかまえます。したの先には小さなとげがあり、虫をひっかけて引き出します。

きつつきは、木をこわして見るように見えます。でも、ほんとうは木を弱らせる虫を食べているのです。だから、「森のおいし屋さん」とよばれています。

(1) 「弱らせる」のいみに合うものを一つえらび、記ごとに○をつけましょう。

ア 強くする

イ 大きくそだてる

ウ 元気がなくなるようにする

エ きれいにする

(2) 文しように書いてあることに合うものを一つえらび、記ごとに○をつけましょう。

ア きつつきは、長いしたをあなのおくまで入れる。

イ きつつきのくちばしは、まがっていてやわらかい。

ウ あなのおくには、なにもかくれていない。

エ きつつきは、木をこわすためにつついていてる。

(3) きつつきのしたの先には、何がありますか。文しよから五字で書きぬきましょう。

(4) きつつきが「森のおいし屋さん」とよばれているのはなぜですか。書きましょう。

書き方のヒント

四つ目のだんらくの「だから」の前の文を見てみよう。

「ゝから。」でおわらせる。

きつつきのくちばし

こたえ

2年 せつめい文 15ばん

なまえ

森の中から、コンコンコンと音が聞こえてきます。きつつきが、くちばしで木をつついている音です。

きつつきのくちばしは、まっすぐでかたくできています。このくちばしで、木に小さなあなをあけます。

あなのおくには、木を食べる虫がかくれています。きつつきは、長いしたをあなのおくまで入れて、虫をつかまえます。したの先には小さなとげがあり、虫をひっかけて引き出します。

きつつきは、木をこわして見るように見えます。でも、ほんとうは木を弱らせる虫を食べているのです。だから、「森のおいし屋さん」とよばれています。

(1) 「弱らせる」のいみに合うものを一つえらび、記ごとに○をつけましょう。

ア 強くする

イ 大きくそだてる

ウ 元気がなくなるようにする

エ きれいにする

(2) 文しように書いてあることに合うものを一つえらび、記ごとに○をつけましょう。

ア きつつきは、長いしたをあなのおくまで入れる。

イ きつつきのくちばしは、まがっていてやわらかい。ウ あなのおくには、なにもかくれていない。

エ きつつきは、木をこわすためにつついていてる。

(3) きつつきのしたの先には、何がありますか。文しよから五字で書きぬきましょう。

小 さ な と げ

(4) きつつきが「森のおいし屋さん」とよばれているのはなぜですか。書きましょう。

(れい) 木を弱らせる虫を食べているから。

書き方のヒント

四つ目のだんらくの「だから」の前の文を見よう。

「くちばし」でおわらせる。

解答・解説 きつつきの くちばし（2年・せつめい文）

もん 問1 ウ

四つ目の だんらくに「ほんとうは 木を 弱らせる 虫を 食べて いるのです」と書いて あります。「弱らせる」は、元気がなくなる ように する ことです。木を 弱らせる 虫は、木の 元気を なくして しまう 虫の ことです。

もん 問2 ア

三つ目の だんらくに「長い したを あなの おくまで 入れて、虫を つかまえます」と書いて あります。二つ目の だんらくに「まっすぐで かたく できて います」とあるの で、イは ちがいます。三つ目の だんらくに「木を 食べる 虫が かくれています」とあるので、ウも ちがいます。四つ目の だんらくに「ほんとうは 木を 弱らせる 虫を 食べて いるのです」とあるので、エも ちがいます。

もん 問3 小さな とげ

三つ目の だんらくに「したの 先には 小さな とげが あり」と書いて あります。

もん 問4 （れい）木を 弱らせる 虫を 食べて いるから。

四つ目の だんらくに「ほんとうは 木を 弱らせる 虫を 食べて いるのです」と書いて あり、その つぎの 文が「だから」では じまっています。木を 弱らせる 虫を 食べる ことが 書けて いれば ○です。